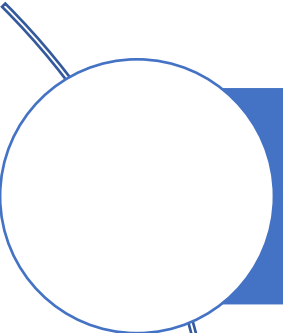


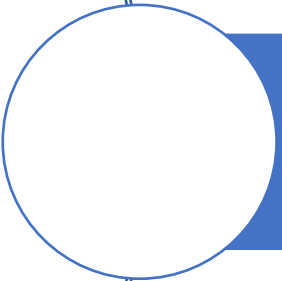
入院者訪問支援事業について 医療機関の立場から

特定医療法人旭会 和歌浦病院
社会復帰部 地域連携室
精神保健福祉士 原 拓也

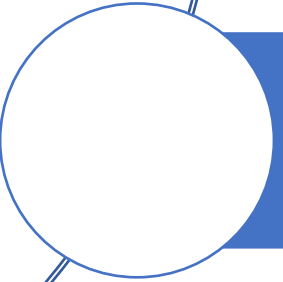
今日のお話



入院者訪問支援事業を受けるまで



入院者訪問支援事業受けてみて

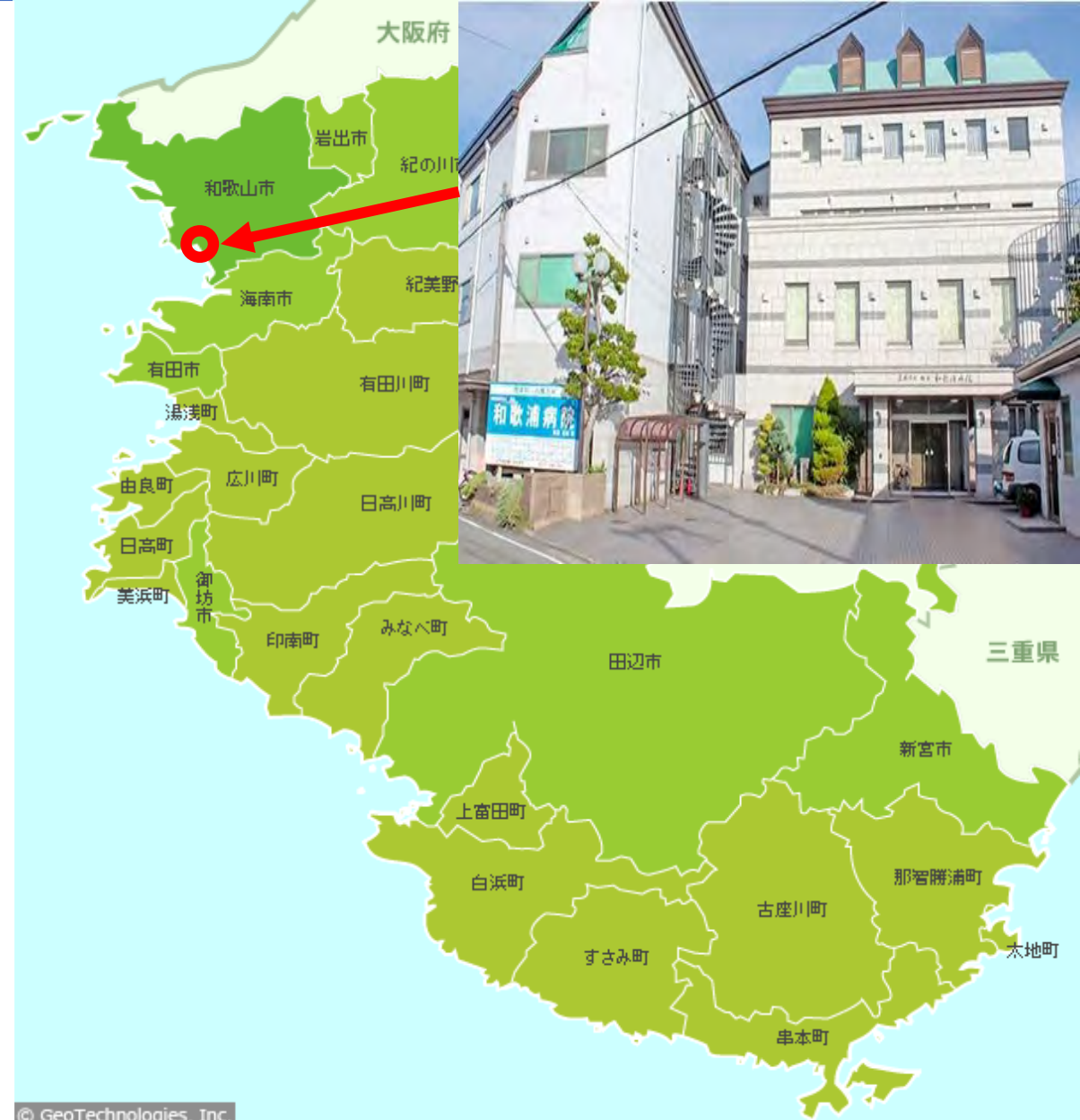


今後について

病院の紹介

名 称：特定医療法人旭会 和歌浦病院
住 所：和歌山市和歌浦東3丁目2番38号
診療科：精神科・心療内科 病床数：172床
病 棟：1病棟 精神科一般病棟（男性）56床
2病棟 精神科一般病棟（女性）56床
精神療養病棟（男女）60床
部 門：薬局（院内）
検査室（レントゲン・心電図・脳波など）
給食部
地域連携室
作業療法室
心理検査・カウンセリング（金曜日）
デイケアセンターはまぼう
訪問看護

○和歌山県精神科救急輪番紀北圏域（毎週火曜日）



背景（院内外連携・協働の実践）

作業所見学ツアー

お悩みなんでも相談会

地域移行支援

ピア☆カフェ（茶話会）・元祖茶話会

※和歌山市自立支援協議会精神障害者部会との連動

作業所見学ツアー

2016年5月12日第1回を実施！年3回程度実施し、2020年2月が最終（以後コロナで中止）

作業療法・デイケアのプログラムとして、入院中の方、外来通院の方合同で実施。（診療報酬で算定）

患者さんには、「どんなところか知ってもらう」「どんなところを目指したいか考える」等就労プログラムとして取り組んでいただく。職員は地域の社会資源を知り、作業所について学ぶ（職員研修の意味も含む）

これまでも外出プログラムはあったが、行き先を変えて支援プログラムを看護師、作業療法士、精神保健福祉士、作業所スタッフ、相談支援専門員で考えた。

参加費無料・予約制

5/12(木) 事業所合同見学ツアー

福祉的就労に取り組んでいる事業所を
見学してみませんか？

ー福祉的就労とは？

障がい等の理由で、企業等で働くことが困難な方が
病気や障がいに対する配慮を受けながら、働き続けられる職場です。



当日は、まほろば → 十四階農園 → ワークメイトの順に見学します。
昼食は十四階農園さんでビュッフェを無料で試食できます！

見学ツアー日程	平成 28 年 5 月 12 日（木）〔午前 11 時～午後 3 時 30 分〕
集合場所	デイケアセンターはまぼう（和歌山市和歌浦東 3 丁目 2 番 51）
集合時間	午前 9 時 50 分までに集合

あなたの「働きたい！」を叶えます

少しでも『働きたい！』と意欲、興味のある方・・・

どなたでもお気軽にご参加ください！

お悩みなんでも相談会

2017年4月18日から病院（研修所）にて月に1回開催。
2020年3月17日最終（コロナで中止）

医療・障害福祉・介護・就労などについて無料で相談できます！

精神保健福祉士、社会福祉士、保健師、介護支援専門員、
相談支援専門員、就労支援コーディネーター、生活支援員
などの専門職が対応

ハローワーク、地域包括支援センター、居宅介護支援事業
所、委託相談支援事業所、指定特定相談支援事業所、就労
継続支援B型事業所などが参加！

お悩みなんでも相談会

～生活支援について～

医療
サービス

介護
サービス

就労
障害福祉
サービス

生活で困っていることなど、お気軽にご相談下さい。
お話を聴かせていただきながら、一緒に考えていきましょう。

申し込み不要・無料で相談できます。

ご本人様、ご家族様、ご関係者様もお気軽にご参加下さい。

精神保健福祉士・介護支援専門員（ケアマネ）・相談支援専門員・障害支援員等が対応致します。

日時：毎月第3火曜日 9:30～12:00

場所：和歌浦病院 旭会 研修所

〈協力機関〉 ハローワーク和歌山 地域活動支援センター樫

地域包括支援センター雑賀 相談支援事業所hana

就労継続支援B型まほろば シルバーネスト・集い

お問い合わせ 和歌浦病院 TEL073-444-0861

地域連携室 担当 原 まで

地域移行支援

地域移行支援継続中 4名（男性3名、女性1名）

今年度退院 5名（男性2名、女性3名）
（2025年4月～2026年1月時点）

退院後に通院（デイケア・訪問看護含む）のみでは退院後の支援が難しい方や退院後新たに福祉サービスの利用を希望している方については、入院中から委託相談や茶話会を含めたピアサポーター活用事業（地域移行促進事業）を利用し、退院に向けたアセスメントの段階から地域の方と面会を繰り返しながら退院に向けて進めている

オンライン茶話会

実施日

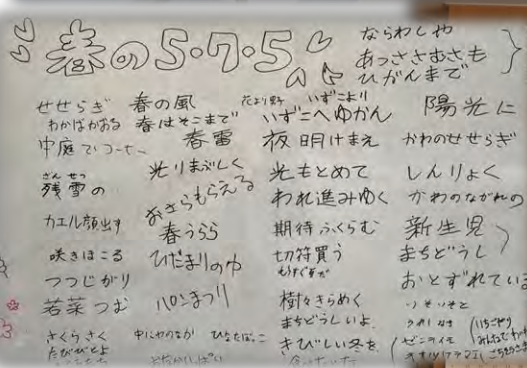
- 2021年8月11日・11月24日 2022年2月17日
- 2022年6月23日・10月19日

内容

- 入院患者とピアサポーターとの交流を目的とし、地域での暮らしの実情や日常の工夫、自分自身が利用しているサービスや支援について説明し、素朴な疑問から退院意欲の喚起、退院への不安に対してアプローチ。

参加者（2022年2月17日）

- 地域活動支援センター2か所（櫻・麦の郷）
相談支援専門員（3名）・ピアサポーター（4名）
- B型作業所（あすの実）
サービス管理責任者（1名）・利用者（1名）
- 相談支援事業所（にじ）
相談支援専門員（1名）
- 和歌浦病院
入院患者（19名）看護師（4名）作業療法士（3名）
精神保健福祉士（4名）



ピア☆カフェ 季節ごとにテーマを決めて実施！

ピアサポーターが発案し、和歌浦病院において開催される、誰でも気軽に参加できるようにという思いで考えられた滞在型の交流の場。

5つぐらいのブース（ピアサポーターとのお話コーナー、ピアサポーターとの個別相談コーナー、地域移行DVDコーナー、動画コーナー、資料コーナー、）に分かれて、スタッフ、ピアサポーターと入院患者さんが関わりを持つこと。

「茶話会に参加するのはちょっと…」と感じている方、退院には少し距離を持っている方、入院生活がマンネリ化していると感じている方々に、色々な働きかけをする場。

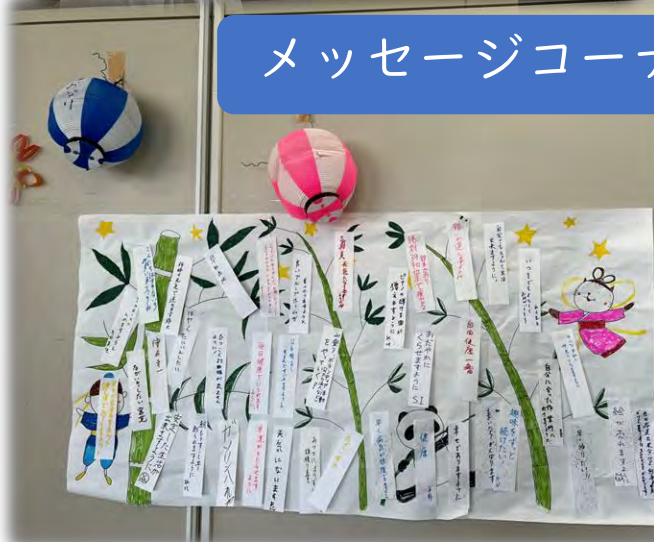


ピア☆カフェ！

ちいきせいかつつうしん



メッセージコーナー



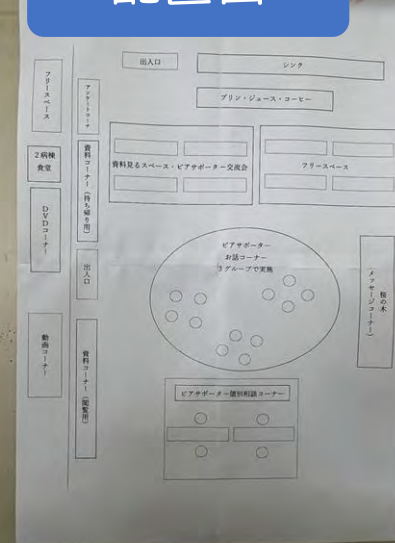
イラスト



情報コーナー



配置図



テーマの壁画



入院者訪問支援を受けるにあたり

2023年12月27日、茶話会の打ち合わせの際、入院者訪問支援事業について、県担当者から病院向けに事業説明会を実施。

参加者

和歌浦病院

・理事長、院長、事務長、各病棟看護師長、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師

地域活動支援センター櫻

・入院者訪問支援事業担当者、ピアサポーター

麦の郷和歌山生活支援センター

・相談支援専門員、ピアサポーター

県こころの健康推進課 担当者2名

入院者訪問支援事業を受けるにあたり

2024年2月18日 和歌山県入院者訪問支援員養成研修（第1回）に看護師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士（参加者兼シンポジスト）の4名が参加。

2024年9月20日 和歌山県入院者訪問支援員養成研修（第2回）精神保健福祉士1名がシンポジスト兼ファシリテーターとして参加。

2025年3月5日 入院者訪問支援事業あつまる会へ看護師1名、薬剤師1名、精神保健福祉士2名（内1名講師）が参加。

入院者訪問支援事業の受け入れ

入院患者4名（男性2名、女性2名）

※2024年度～2025年度現在まで

医療保護入院（市長同意2名、家族同意2名）

※同意者が兄弟へ変更となってから面会機会がない状態。

入院者訪問支援を受けてみて

患者さんの反応

- 面会にきてくいたのでうれしかった。
- 自分には必要ないけど、来るならまた会うつもり。
- 1回の面会でいきなり本音で話すわけではないけど、聞いてもらいたい人にとっては、病院以外の人に話せる機会はいいんとちがう。
- ピアサポーターの方が来てくれて、話がしやすかった。また来てほしい。

入院者訪問支援を受けてみて

医師・看護師・精神保健福祉士

- 家族や支援者が面会へ来た時とスタッフの対応はほとんどかわらない。（看護師）
- 普段から茶話会や地域移行支援で外から人がきてるので、感染症の時期は気になるが、特に普段の受け入れとかわりない。（医師）
- 家族と疎遠になった方にとっては、面会者がいることがうれしい。という反応があった。（看護師、精神保健福祉士）
- 長期入院の方にとっては、職員に言いにくいこともあるかもしれないので、話をきいてもらえる機会はよいと思う。（医師、看護師、精神保健福祉士）
- 患者さんにとっては、自分たちはあくまでも病院職員。（医師、看護師、精神保健福祉士）
- あくまで社会資源の一つ。情報は届ける必要はある。（精神保健福祉士）
- それぞれに役割があり、それをそれぞれが発揮したらいい。（医師、看護師、精神保健福祉士）

今後について

家族と疎遠で面会者がいない方にこの事業を知ってもらいたい。

近い人だから言いづらいこともある。

（家族に言わないことを支援者に話すことと同じ）

病院の職員がダメだからこの支援を使うのではない。あくまで社会資源の一つとして活用してもらう。

地域の方が病院へ入ることで、地域連携がスムーズに！

医療保護入院の方だけでなく、任意入院の方にも利用できたら！